



5番議員

田口 浩

林道福山、二城山線の の今後は!!

田口

25年度から 町長 調整に取り組む計画

Q 独居老人と孤独死について、独居老人が全世帯の8%の方が65才以上の独居者で占められている。又、独居者が孤独死するケースが報道されているが町ではどの様に取り組みをされているかをたずねる。

A 町長 南関町では65才以上の一人暮らしの方は400人を超えている。町の取り組みとして社会福祉協議会、民生委員協議会、区長会と連携し、現況把握に努めている。

地域住民の協力がなければならぬ、今後も各種団体や地域の皆様と連携し支援の強化に取り組んでいきたい。

Q ある報道社の発表によれば11年度の

高齢者は全国で23.3%、近隣の町では長洲町、26.9%、和木町35.9%、南関町32.4%となっている。社会との接点が乏しいことから孤独死と言う。周囲に存在さえ知られないまま、餓死か病死するケースが多いがどう言う取り組みをされるか。

A 福祉課長 まず福祉課として、町・国から毎年福祉票と云う、調査、報告の表がある。そ



れに基づいた数値がある。それについて答える。町では65才以上の一人暮らしは412名である。民生委員、社会福祉協議会、老人会、区長会、ボランティアの方々と連携して取り組んでいる。又、高齢者の一人暮らしをねらった悪徳商法、振込み詐欺等が町でも発生している。福祉課として、行政、苦情、相談という形で窓口を設けている。それから緊急通報システム整備事業をやっている。これは一人暮らしの高齢者の緊急時の連絡を迅速又正確に行える様に装置を貸与する事業でボタンを押すだけで、消防本部に連絡し、

内容により救急車への通報や役場の方へ連絡する事業ちなみに平成23年度、新規15台、移設3台、24年度新規10台、移設5台、現在までに132台を設置している。また、健康管理と安否確認をお願いする形で夕食を町内三業者に委託し23年度1473食を配食する事業もやっている。重点的に一人暮らしの方を支援する取り組みを行っているところだ。

Q 次に関東の福山から相谷の二城山までの林道について、途中で寸



断されているが、開通する様にされるのか。

A 町長 林道福山、二城山線について平成七年、山林・竹林の間伐、放置竹林解消目的に開設された。しかし道路こう配、排水側溝、カーブ等の林道基準に合わず、作業道路として使用されている。平成19年に延長2413メートル、幅員5メートルで拡張し林道に昇格したが、林道用地の取得にめどが立たず中断している。しかし隣接する集落や森林所有者からの要望もあり、県玉名地域振興局担当課と協議し、白川、菊池川地域森林整備計画の変更申請を行い平成25年から用地所有者調査、関係集落との調整などに取り組む計画で

いる。

公共施設の安全管理と 景観保全の取組みは？

鶴地



4番議員
鶴地 仁

公共施設の安全管理と景観保全の取組みは？

Q 公共施設の危機管理と景観保全について、管理マニュアルの整備、一斉点検等の実施状況、景観保全の取り組みについて問う。高速南関インター入り口300メートル程手前の待避所が、ガードレールとチエーンで進入禁止とされたままで、景観上非常に見苦しい。もう1点は、井弥原ため池から大津山鳥獣供養塔までの町道、道脇の木が大きくなり、陽が差し込まずツツジの大半が枯れる寸前の状態にある。既に消滅した箇所が何力所もあるがこれらの改善策は？

A 町長 公共施設利用者の安全性の確保

は、施設管理者の責任であり、管理マニュアルの整備を進めているところである。南関インター入り口手前の待避所については、過去において、ごみの不法投棄や自動車の放置場所となっていたため、出来ない策を講じた。今後の改善策だが、環境の保全を前提に県と協議

をする必要がある。**A** 建設課長 指摘の町道は、平成3年に開設した道路であり、開設から20年ほど経ち隣接の樹木が大きく成長したため、植物にとって好ましくない生育環境となっている。他所管の支援策を検討する必要があると考えている。



インター入口付近の待避所

Q 安全性の確保と景観上から、大津山公園藤棚横の駐車場は、トイレと竹藪、杉といったもので人の目から死角となっている。車上ねらいといった犯罪の危険性と景観保全の上からも公園化すべき。

A 町長 公園化については用地の関係もあり、議会の理解と振興計画の中で検討して参りたい。

おすひ 大津山公園一帯は、町外からの訪問も多い。南関町は引越越し、定住の価値があるかといった評価にもつながるので、景観保全の取り組みは大切。保育園統合、再検討の余地はないか？

Q 保育園統合が、平成25年度からの計画で進んでいるが、施設の受け入れ可能人数と近年の出生数の推移を考えると、統合は慌てすぎではないか。3月の1,700人の署名運動にもあるとおり、計画設定時

と状況が大きく変わってきている。他園に回された場合に、保育料負担に不平等の発生の恐れがないか。

A 町長 施設として、4園統合を前提とした整備を行っており、保護者負担の不平等についてもないと判断している。

A 福祉課長 最高何名まで受け入れが可能であるかということでは、来年度の入所見込み推計を申請240名としている。施設における最低基準の面積を確保しておれば、定員の25%増まで受け入れ可能となっているので、こどもの丘で十分受け入れ可能と思っている。

おすひ 統合のメリットとして、多様な保育ニーズに対応できるとあるが、少人数の中で保育を受けさせたいというニーズに応えることは出来ない。大きな集団にどうしても馴染めない子どもがいることも考えるべき。



2番議員
境田敏高

通学路の緊急点検による危険箇所は

境田

Q 登下校中の児童・生徒の列に車が突っ込むなど、通学路での交通事故が相次いだことを受け、文科省は通学路の緊急点検と対策を検討するよう都道府県教委に通達した。調査結果はどのようになっているか。

A 教育長 8月下旬、危険箇所の一斉点検を実施したところ、一小校区4カ所、県道1カ所、町道3カ所であった。二小校区は県道3カ所、町道1カ所。三小校区は3カ所であったが、いずれも国道沿いであった。四小校区は4カ所、いずれも県道沿いで、計15ヶ所を危険箇所として報告している。即応できない箇所については、今後も地域の皆さん、保護者のパ

トロールをお願いすること、現在対策を立てているところである。

Q 当町の歩道整備率はどの程度か。

A 町長 歩道の整備率は、町道の約5.5%である。交通量の問題も含めて、今後十分検討してまいりたい。

Q 通学路の歩道整備は、なぜ遅れるのか、主な原因は何か。

A 建設課長 遅れる原因は、幅員が確保できないことと交通量等が常時多い訳ではないことかと考えている。

おしほ 今年の県内の中学生以下の交通事故は、8月末現在で、381件発生している。死亡事故はなかったが、負傷者が440名であり、この負



朝の通学風景（小次郎丸）

が上げられている。又、町の要望として、も次郎丸大場線、県道大牟田植木線、県道玉名八女線歩道新設などがあがっているが、現段階の要望はどのようになっているか。

A 町長 出来るだけ早い時期に地元代表者に提示できるようスケジューリングを県と共に作業を進めているところである。

A 住民課審議員 四小校区については、内田川沿いの河川用の管理道路を通学路として活用できないか、現在県と協議している。

Q 次郎丸大場線だが、この路線は危ない。特に、通学時間帯に、抜け道として利用する通勤

車両が非常に多い。現地視察もされたと思うがその後どのような対策を取ったか。

A 建設課長 外側線を引き、路側帯を確保して運転者の注意を喚起するという対策を取りたいと計画している。

おしほ ガードパイプなどの防護柵の設置や通学時間帯だけでも速度制限を設けたりして、子どもたちの命を守る対策を急ぐべきである。

Q 平成23年度の救急車の出動は南関町全体で528件、437名の搬送がなされている。このうち、353件は急病でとくに高齢者の方々が多くみられる。生活道路で緊急車両が入れない箇所は把握しているか。

A 総務課長 町道を含めた生活道路で、166カ所以上である。

おしほ 道路の整備は歩道も含めて、安心して住めるように、命を守るための公共工事として取り組むべきである。

統合反対1700人の署名に対し どのように受け止めたか

唐杉



10番議員
唐杉純夫

Q 公立保育園の存続を財政面から質問する。「住んでよかったプロジェクト」推進費を織り込んで、なお10年間財政計画では平成32年度で29億円の基金が残るところになっている。ところで計画時と決算の数値の差異はどうなっているか。

A 総務課長 21年度1月の財政計画作成時が21年度末17億8,000万円であったものが決算時における残高が20億1,000万円。22年4月財政計画作成時で15億6,000万円、これが決算時の基金残高は22億6,000万円である。

23年1月作成の計画時が20億6,000万

円、これが決算時には24億2,000万円となっている。

Q 対応する年度の財政計画と決算との3基金の残高は21年度では差し引き、3億円の増、22年度では、これは7億3,000万円の増、23年度では、約3億の増となっている。このように南関町の財政は、年間2億円から3億円の余裕をみた計画となっている。いずれにしても平成30年度には3基金の合計は30億円に達するとみてよい。これだけ余裕のある財産となっている。ところで、第1保育園がこどもの丘保育園に統合されることによって、削減

Q 対応する年度の財政計画と決算との3基金の残高は21年度では差し引き、3億円の増、22年度では、これは7億3,000万円の増、23年度では、約3億の増となっている。このように南関町の財政は、年間2億円から3億円の余裕をみた計画となっている。いずれにしても平成30年度には3基金の合計は30億円に達するとみてよい。これだけ余裕のある財産となっている。ところで、第1保育園がこどもの丘保育園に統合されることによって、削減



される予算は年間いくらか

A 総務課長 1,200万円である。

Q 南関町総合振興計画中の大きな柱となっている「住民との協働」あるいは「住みよい南関町」の精神によってまちづくり推進課が新設された。「住んでよかったプロジェクト」のもとに人口増政策、定住対策が

される予算は年間いくらか

A 総務課長 1,200万円である。

Q 南関町総合振興計画中の大きな柱となっている「住民との協働」あるいは「住みよい南関町」の精神によってまちづくり推進課が新設された。「住んでよかったプロジェクト」のもとに人口増政策、定住対策が

A 町長 25年度以降の総合振興計画に載っていない事業として、庁舎の耐震構造の問題、公有施設の維持管理に関する費用、いま考えている宅地の分譲事業などがあって、財政的にも楽ではない。保育園統合はいったん決まったことで

打ち出されているが、そのための費用は9,800万円、約1億円である。公立保育園を残さない保育園統合は話しがあつていた当時の行財政計画では反対ににくい状況にあつたことは確かであるが、いまは大きく変わってきている。「まちづくり推進費用」を9,800万円からあと1,200万円増やすことで、「住んでよかったプロジェクト」の定住対策、人口増対策に筋を貫くことは考えていないのか。

A 町長 25年度以降の総合振興計画に載っていない事業として、庁舎の耐震構造の問題、公有施設の維持管理に関する費用、いま考えている宅地の分譲事業などがあって、財政的にも楽ではない。保育園統合はいったん決まったことで

ある。よほどのことがない限りこれをくつがえすことは出来ない。

Q ことし3月に1,700名からなる統合反対の請願書が出されている。この件に対してどのように対応したか議事録は残っているか。

A 福祉課長 残っていないが、署名の重みは十分受け止めている。

おしひ 統合決定当時は財政改革と出生児減少の中で、反対の意見は出にくい状況だったことは確かである。しかし、状況は大きく変わり、財政的にも好転する中で住んでよかったプロジェクトが発足し、定住化施策、人口増施策も打たれるようになった。そうした中で当時のメンバーではなく、新しい保護者を中心に寒い中を署名活動をされた。その検討結果を記録にも残さないで放置されたままである。これで「住民との協働」と言えるのか。大きい疑問を感じる。



3番議員
打越潤一

環境保全協定書案の 現在の進行状況は **打越**

監視委員会を先行して 内容を検討している 町長

Q 環境保全協定書締結までどのよう内容に固めていく考えか。

A 町長 監視委員会

は、みずから施設の安全性を確認され、安心いただけるためにも住民の皆様へぜひ参画いただく方向で調整しており、できるだけ建設工事中から監視できる方向で検討をしている。あらかたの案が完成した段階で、住民の皆様方にお示ししながら、内容を協議してまいりたい。

Q 地域振興策の町の要望事業とあわせて現在の検討状況を尋ねる。

A 町長 地域振興策

は、地元との協議を進めながら、全体の概算事業費の積算とともに、地元要望の強さと、基本

協定書の理念である処分場を中心とした地域の振興の二つの視点を軸に、優先順位を付けるなど、整備ができたところから並行して県内部で関係部局や財政当局との検討、協議が行われていると聞いている。進捗状況に応じていくとともに、町議会にも適時報告させていただきたい。地域振興策の最終的な取りまとめ方は、現在協議中であるため明言できないが、町及び地元が実施主体となる事業は、県から町への交付金が原資となることから、地域振興策では県とともに事業総額を確認し、事業実施に関しては町が実施している分、地元が実施しているものも含めた計画的に実施していく手法を検討している状況である。引き続き地元の方々と協議しながら、より良いものとなるよう取り組んでまいりたい。

Q 県道改良、歩道整備等の要望事項の検討状況を尋ねる。

A 建設課長 県道の大牟

田植木線の交通安全事業に乗り出す。金型ブラザから北の辺田線の交差点まで、約1キロほどある。そこに歩道等を付ける。歩道の幅2.5メートルの片側歩道を新たに設置するという事で計画をされている。また、

内田川をまたぐ北の辺田橋についても、側道橋を整備するという事で、今年度から5カ年間の計画、事業費は3億円とされている。

Q 騒音、臭気（異臭）が最近も感じられる、企業、事業所の環境保全協定の内容はどうなっているのか、またそれらに対する問題点の検討はなされているのか。

騒音、臭気（異臭）が最近も感じられる、企業、事業所の環境保全協定の内容はどうなっているのか、またそれらに対する問題点の検討はなされているのか。

A 町長 その地域に建設する施設から事業活用による公害の発生を未然に防止し、自然環境の保全及び地域住民の生活環境を確保することが目的となっている。なお、公害防止基準書、廃棄物の処理などについても協定に含めている。

Q 苦情の処理方法はどこへもっていくべきか。

A まちづくり推進課長 町も企業も誠意をもって対応するというところで考えている。

おしり 人はそれぞれ生活のために生産活動をしており、お互いに譲り合いながら仕事や生活している。許容範囲を超えた場合、同じ音の高さでも、同じ臭いでも不快に感じるものと思う。事業所等も改善はされていると思うが、なお一層の努力をしていただき、町も住民のため、生活環境を保全し、健康維持の実現ができるよう要望する。

県道大牟田～植木線（下坂下北の辺田橋付近）



町の情報!! 城北ブロック消防広域化協議会解散



消防の広域化は国の方針で、大規模災害時の迅速な出動や指揮命令の一元化など消防力強化を目的としたものです。県内では13消防本部を城北、中央、城南、天草の4ブロックに再編するという計画の中で、城北ブロック(山鹿植木、有明、阿蘇の3消防本部)の統合が協議されてきましたが、10月22日「統合への意見一致は難しい」として協議会の解散が決まりました。当初から不参加を決めていた菊池広域を除く3消防本部で2011年7月から協議されてきましたが、自治体間に財政負担の考え方で相違があること、消防力強化の大義が見えないといった意見など、統合に反対する意見が相次ぎ、これ以上協議を進めるのは困難として解散が決定したものです。城南ブロックも23日に協議会を解散しました。

県は「経緯を検証し、今後に生かしたい」とのことですが、住民の生命と財産を守る消防力の強化は、どのような方法にせよ少子高齢化、核家族化が進行する中で早急に取り組まなければならない課題だと思います。南関分署における救急出動件数の推移を調べてみました。

	H15年度	H17年度	H19年度	H21年度	H23年度
出動件数	373	456	464	349	443
平均到着時間	6分26秒	6分58秒	6分51秒	7分01秒	6分20秒

- ★ 出動件数が、平成19年から平成21年にかけて減少しているのは、平成20年4月から出動態勢が市町村管轄でなく、発生場所から一番近い部署からの出動体制となったことが原因です。(南関町宮尾、上長田、高久野の一部が荒尾緑ヶ丘分署の出動エリアとなり、又、下坂下、肥猪地区の一部は和水平署のエリアとなりました。) 出動エリア変更により、平成21年に減少したものの、23年には狭くなる前の件数とほぼ同じ件数となっています。
- ★ 消防庁発表の平成22年救急・救助の概要によると、救急隊の現場到着までの全国平均は8.1分(前年7.9分)、病院収容までの時間は37.4分(前年36.1分)で過去最高となりました。
- ★ 軽症者への救急出動が増加傾向にあり、適正利用が呼びかけられています。

総務文教常任委員会

10月10日(水)～12日(金)

広島県(北広島町、世羅町)、香川県(まんのう町)を視察

◆10月10日(水) (北広島町：人口 19,611人、面積646km²)

総合型地域スポーツクラブ(どんぐりクラブ屋台村)の活動、運営について

当クラブは一般財団法人として平成元年に設立され、総合運動公園等の管理委託と特定保健指導事業を大きな財源としています。各種イベントの実施はもとより、総合運動公園利用者の年間利用者数11万人、学校校庭の芝生化への取り組み、他の町への健康指導派遣事業は驚嘆に値するものでした。

◆10月11日(木) (世羅町：人口 17,085人、高齢化率 36%、面積 278km²)

デマンド交通「せらまちタクシー」の運営について

旧世羅町を中心に3町が合併して出来た町ですが、中心部に、病院・スーパー・コンビニ等の生活に必要な施設が集中しているところから、町内全域をカバーする定額運賃(片道300円)の乗り合いタクシーの運行による交通手段が提供されていました。ジャンボタクシー4台、小型タクシー3台で1日5往復、商工会と町内タクシー事業者との委託契約による運営。1日約150人が利用。



◆10月12日(金) (まんのう町：人口 19,981人、高齢化率 31%、面積 194km²)

デマンド交通「あいあいタクシー」の運営について

ワゴンタイプ(10人乗り)を基本とし、3地域各1台の3台で運行、1回の利用につき300円の乗り合いタクシー制。共通パス券、1ヶ月3,000円はよいアイデアと思いました。この町も利用時刻の30分前までの電話予約と、商工会が運行管理、運行事業者はタクシー事業3社によるといった運営でした。

交通体系研修の2町は、南関町の面積69km²に比し、4倍、2.8倍とそれぞれ大きく、交通路線の形態も異なりますが、交通弱者救済、バス会社に対する補助金の支出といった問題は共通するところであり、本町に合った交通体系研究の重要性を学びました。



再生可能エネルギーを考える

東日本大震災による原発事故以来、国中で電力不足が心配されました。供給力不足による大規模停電を避けるため、万が一に備えた計画停電の準備がなされ、停電時間帯のエリア表が配布されました。官民上げて節電に努め、停電という最悪の事態は免れましたが、大騒ぎしたわりには何事もなく過ぎてしまいました。それどころか原発稼働のためのやらせだったという批判が飛び交い、情報提供の不足どころか、情報操作とまで疑われてしまいました。しかし、原発事故を契機として、平成24年7月1日から※「再生可能エネルギーの固定価額買取制度」が始まりました。南関町でも7月にセキアヒルズのメガソーラーが稼働したことはご存知のとおりですが、最近の太陽光発電の普及は驚くばかりのスピードで進んでいます。

南関町では、セキアヒルズの太陽光発電(3,300kw)をはじめ小中学校、一般住宅等で合計200基(8月現在)が設置されており、そのうち町の補助対象は103件、498kwに達しました。太陽光発電に対する町の補助金は35,000円/1kw、上限105,000円となっています。一般家庭での普及、耕作放棄地の利用といった対策を取れば、もっともっと伸びるのではないかと、将来のエネルギー問題を考えれば、新築住宅への太陽光発電の設置を義務化し、国を挙げての思い切った補助金投入と税減免措置を導入したらどうかと思うものです。

※この制度の対象となる再生可能エネルギーは太陽光、風力、水力(3万kw未満)、地熱、バイオマスです。

定住促進対策

住んでよかったプロジェクト推進事業

南関町では、人口の減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図り、住みたくなるまちづくりを目指すため、定住促進を柱としたさまざまな施策を実施しています。

■福岡市営地下鉄 窓上ポスター

なんかん
南関町定住促進対策 住んでよかったプロジェクト推進事業

魅力ある豊かな暮らしを創出できるよう、住みたくなる町づくりを目指すため、さまざまな定住促進を柱としたプロジェクトを展開しています。

あふれる緑の中に、暮らしやすさを備えたと住み続けたいなるまち。
NANKAN TOWN



住んでよかったプロジェクト推進事業(一例)	
新幹線通勤・通学助成金	5千円/月
住宅取得等補助金	最高100万円
関所っ子誕生祝金	1子10万円～5子50万円
保育料補助金	半額
こども医療費助成金	中学生まで全額(保険診療分)
学校給食費補助金(小中学生)	2千円/月

※詳しくは事前に担当窓口へお問い合わせください。



九州新幹線全線開業で、福岡直達も可能になりました!

南関町 約20分 (大牟田市街)
関所 約10分 (新大牟田駅)
福岡市 31分 (九州新幹線)
高速道路 53分

詳しくはWEBでチェックしてね!!

～緑にいきづく関所の里～

熊本県南関町 熊本県玉名郡南関町大字関町1316

TEL. (0968)53-1111 <http://www.town.nankan.lg.jp/>

南関町 住んでよかった

今年度は、南関町定住促進PRポスターを、都営地下鉄浅草線・大阪モノレール・福岡市営地下鉄に掲載し事業の広報を行っています。

始まったばかりの事業ですが、平成23年度は出生数及び住宅建築数が前年比1.4倍に増加しています。今後も本事業を有効に活用して、更なる町の活性化が図られるよう、たくさんの方々の活用をお待ちしています。

事業内容については昨年配布しています「住んでよかったプロジェクト推進事業」のパンフレットまたは町ホームページをご覧ください。

詳細については事前に担当窓口へお問い合わせください

南関町役場まちづくり推進課 直通0968-57-8501

15 南関町議会だより「なんかん」24.11

議会日誌 8~10月

主なものを載せています

- 8月4日 広報調査特別委員会、
- 16日 総務文教常任委員会
- 議会全員協議会
- 11日 議会運営委員会
- 産業厚生常任委員会
- 19日 } 9月定例議会
- ~26日 }
- 10月10日 } 総務文教常任委員会
- ~12日 } 視察研修
- 18日 総務文教常任委員会
- 22日 議会全員協議会
- 24日 広報調査特別委員会
- 29日 広報調査特別委員会

議会を傍聴してみませんか？

次回の議会定例会は12月開催の予定です。
お問い合わせは議会事務局(57)8508番へ

Topic!

ゴールボールって!?



浦田理恵さんが見事金メダルに輝いたゴールボールについてご存知ですか？

この競技は、目隠しをしながら鈴の入ったボールを転がし、ゴールに入れることで得点を競う競技です。視覚障がい者の球技でパラリンピックの正式種目になっています。

バレーボールと同じ広さのコートを用い、両端に幅9m・高さ1.3mのゴールポストを置き、コートラインの紐を触って確認出来る様になっています。選手は全員目隠しを着け鈴の入ったゴムボールの音を聞きながら1チーム3名により前・後半各10分、ハーフタイム3分で1試合となります。日本でこの普及はまだ浅いものの、2004年アテネの銅メダルに続き、今回のロンドンパラリンピックで金メダル獲得の快挙となりました。因みに、パラリンピックの団体競技での日本の金メダルは史上初です。「視覚」を補うため、「触知覚」・「聴覚」が頼りで、極限の集中力が必要とされます。



編集 (広報調査特別委員会)

委員長	打越 潤一
副委員長	井下 忠俊
委員	田口 浩
委員	鶴田 仁
委員	境田 敏高
発行責任者	本田 眞二

ラッコが温暖化防止!?

コンブは光合成で二酸化炭素を吸収する。ウニはコンブを食い荒らす。そのウニをラッコが食べるので、コンブが保護され、地球温暖化防止に役立つという。CO₂の循環に動物が大きな影響を与えることを示す重要な結果だとして、米サンタクルーズ大学の研究者等が発表しました。正に「風が吹けば桶屋が儲かる」という諺を実証したような研究です。

チームはラッコとコンブの生育密度に関し、カナダのバンクーバーから米アラスカ州にかけて40年間のデータを解析、ウニはラッコがいるときは岩の割れ目に隠れてコンブの破片を食べているが、ラッコがいなるときは生きている昆布を食い荒らしていた。ラッコによる間接的なコンブ保護は、CO₂排出量取引で320億円に相当する価値があるとのこと。環境も生物もすべてが周りと関わりあいながら存在しているということ、有害鳥獣による被害をどうすれば減らせるか知恵が待たれます。(鶴地)

ティーブレイク 編集後記

